

「医療被ばく」と「放射線検査のトレンド」について



今月は、X線検査で受ける「医療被ばく」と「放射線検査のトレンド（潮流）」についてお話しします。「放射線を浴びる」や「放射線にさらされる」ことを「被ばくする」と言いますが、この「被ばく」という言葉に漠然とした怖いイメージを持たれている方は多いことでしょう。この背景には日本は唯一被爆を経験した国であること、被ばくが健康に及ぼす知識の広まり、最近でも原発再稼働の問題や核燃料廃棄物処理の文献調査など放射線にまつわるニュースが間断なく聞こえ、依然として、「放射線検査は怖い……」と思われるのは当然であると思っ

ます。現代の生活環境に深く係わりをもつようになった放射線と人体への影響については放射線管理や防護の観点から、患者さんが診療で受ける放射線被ばくを「医療被ばく」とする分類があり、この被ばくを低減する取り組みは、患者さんに不利益を与えないための重要な課題です。当放射線科の取り組みとして、検査する部位、体格、医師が疑っている疾患、診断に必要とされるX線画像の画質などを考慮し、常に必要最小限のX線照射に留めるよう検査を行っています。そしてもう一つ重要な対策は、「医療被ばく低減に対応

した機器」の導入になります。

一昨年より町立病院のレントゲン装置の検出器をデジタルX線検出器（FPD：Flat Panel Detector）に更新しました。この新しい検出器の導入により、胸部X線検査の医療被ばくは以前と比べ半分以下にまで減少させ検査を実施しています。

※一部FPDに対応していない検査があります。

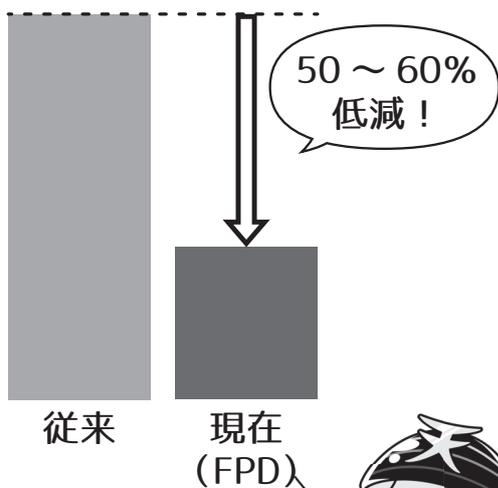
また、当院のCT装置も初期型ではありますが被ばく低減に対応した装置です。福祉課ふれあい係さんからもご案内されている「肺がんCT検査」は、一般診療で行う胸部CT検査の1/4ほどの低線量で、肺が

ん病変だけに特化した検査を実施しています。このように、「医療被ばくを低減したX線検査の実施」が現在の放射線検査のトレンド（潮流）であり、町立病院の放射線科もこの医療被ばくの低減を念頭に置き、検査に取り組んでいますので、どうぞご安心ください。

町民の皆さまが、医療被ばくを恐れるあまり適切な検査を受けない選択をされないよう、また、病気の発見や診断を遅らせることにつながるよう、今後も医療被ばくの低減化に努めてまいります。

（放射線科 診療放射線技師 津田）

胸部X線検査 医療被ばくの比較



こんなに低減されるんだね！

